

南奥駈道A班(持経宿↓太古ノ辻↓前鬼)の連休前点検巡視

◇実施日：平成27年4月11日(土)～12日(日)

◇参加者：川島 功、児嶋道夫、田中稔昭、梶野照雄、計4名。

(同宿者1名)

4月11日 天候：曇り後晴

3月下旬から雨天が続き日照時間が少なく、土日は久しぶりに晴れの予報となり山行行事が出来そうだ。しかし、雨天で蜜柑作業が遅れ日曜日作業となり欠席、前日の雨中山行で発熱し急遽2名不参加になり、4名が池原スポーツ公園に15時過ぎに合流。B班の車回送も考慮して川島車に分乗。

池郷林道ゲートを越えると軽トラとすれ違う。下北山村の青年の森の徐伐の帰りとのこと。何時崩れてもおかしくない箇所通行を尋ねると、測量中で通行して来たとの事で安堵する。崩落可能性大の箇所には、作業小屋が設置され、二人が測量をしている。

崩落防止策は、杭打ちで石入り金網積みとチェーンを張り復旧する、作業に着手すれば約1ヶ月で完了するとの事で、連休中は白谷林道を使う事になるだろう。

崩落箇所の調査等入り路面は、かなり良くなっているが、定員一杯の乗用車なので、車底が擦れないようにゆっくり走行。

稜線三叉路に青木車が駐車。ここから歩き行仙宿に泊、明日、南奥駈道B班(行仙岳↓持経宿)の点検巡視に合流することのこと。先週も土日に点検巡視をして下さり本当に有難い。

持経宿に着くと誰かが居る。前鬼から来て今晚宿泊(名古屋市の

藤間 聡氏)することのこと。

川島・田中で水場へ。ホース口の落葉を除くと勢い良く流れ、直ぐポリタンが満杯になる。その間に梶野氏は、前回板幅不揃いでテーブル脚を一部ビス穴が合わなかったテーブルの補修。児嶋さんは便所前に手洗い器具設置。

作業も一段落し、17時過ぎに同宿者の藤間君も加わり夕食。程なく登山者が通り宿泊か聞くと平治宿まで行くとのこと。

参加者は、3食分(夕・朝・昼)各自調達としたので、ばらばらであるが、持ち寄った塩スルメ、イタドリ油炒め・焼芋等が差入れされ、とりわけ児嶋氏の炒めた玉葱に卵をかけ、その上に田中氏のスライスチーズを乗せた料理は絶品であった。

5人は下戸ばかりでビール2缶/人で十分で、藤間君が車駐車の前鬼へ戻るため5時に出発するとの事で、20時半過ぎに就寝。23時頃には、星空で明日の天候は良さそうだ。

行動タイム

新宮 13:50→15:05 池原スポーツ公園 15:15→15:35 池郷林道ゲート→16:10 持経宿。



夕食懇談中



4/12 持経宿出立

4月12日(日)気温4℃。天候：霧雨。視界10m〜50m。
夜中に梶野氏がストーブに薪、ヤカンに水を継ぎ足してくれた
様で、藤間君起床時にはお湯が沸いていた。

4時に起きると、雲に覆われている様だが、後で晴れるだろう
と楽観していた。テント持参で遅いと藤間君5時15分前鬼へ。
予報に反して曇天で霧雨が東側から吹きつけるが雨具着用な
し。持経宿より登り出すと赤紫の三つ葉ツツジが元気づけてく
るが、歩き初めの阿須迦利岳の急登は体に堪える。

阿須迦利岳を下る急斜面にシデコブシが白く開花し始めてい
る。霧雨で岩や落葉が濡れていて、滑りやすく慎重に下る。鎖場
の鎖は異常なし。

証誠無漏岳で児嶋さん自前の道標設置。十津川村設置の石柱道
標は、傾いているのでレベルで垂直に起し、隙間に岩をかまして
ハンマーで叩いて固定させる。傾いて見えるが、レベルで測ると
垂直で、地形によって目測が当てにならない。倒伏と傾いた石柱
道標の復旧は、十津川村から今年要請があり、受諾したので点検
と復旧作業をする事になった。



証誠無漏岳で道標設置と傾いた石柱道標復旧 涅槃岳の復旧石柱道標

直ぐに腰高さの倒木がありチェーンソーで処理する。小径木倒木
は、梶野氏の手鋸で処理。涅槃岳の傾いた石柱道標は復旧する。
涅槃岳下りの支谷崩落箇所は、少しづつ浸食している。ヒクタ
ワ(剣光門)のバイケイソウは、筒状で未だ葉を広げていない。滝
川辻、般若岳の傾いた道標を起こし復旧し、太い倒木を処理。



滝川辻の石柱道標 般若岳の傾いた石柱道標 倒木処理 2
地蔵岳の石柱道標は、完全倒伏している。児嶋さん持参のピッ
ケル替りのツルハシと折畳スコップで穴を掘り、4人で力合わせ
て倒立させ、水平レベルで垂直にして、集めた石で四方を埋め、
ハンマーでた叩き固めて土を被せて復旧する。



地蔵岳の倒伏石柱道標と復旧道標 嫁越峠・復旧石柱・木製復旧中

嫁越峠の傾いた石柱道標及び木製道導も復旧する。

ここまで石柱道標復旧作業時は、歩行していなので休憩として来たが、実際は霧雨で視界も無く体を動かしている方が温かいので、体を動かし続けていて休憩していない事になると思われる。

奥守岳の登りは、段々と疲労が増し梶野氏以外はしんどそうだが、奥守岳山頂の西寄りの所で風を避け昼食。寒くなり30分弱で昼食を切り上げ、奥守岳の傾いた石柱道標を復旧する。

天狗山で児嶋・梶野氏が山頂標識設置の間に、川島、田中が先行する。

石楠花の群生尾根は、花芽が少ない様で、霧雨に濡れていてズボンが濡れて冷たい。石楠花岳山頂手前鞍部の石柱道標は、完全倒伏している。水を含み殆んど土で容易に掘れる。力合わせて倒立させるが、道標の進行方向が合わない、穴の中で回転させて矢印方向を合わせ四方石で固定させる。

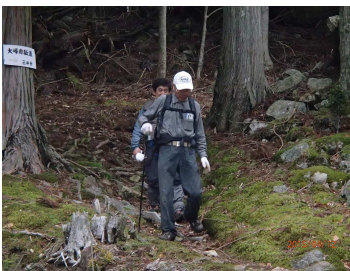
滝川辻手前で山岳トレイル姿の若者が、笹の滝へ行くとのこと。この視界と山径がはつきりしてないと伝えた。その若者が、行かなかったと戻って来る。これ直すのと怪訝そうにしている。



奥守岳の傾いた石柱道標 石楠花岳手前鞍部の倒伏石柱と復旧石柱

途中、倒木処理後、仙人舞台石を越え大古ノ辻に13時半過ぎに到着。ここまで倒木は、チェーンソー処理4本、手鋸2本。石柱道標の復旧8本(内2本が完全倒伏)作業した上での到着は決して遅くは無い。尚、石柱道標の復旧は、四方に石をかませて固めたもので完全とは言いがたく、再度復旧することになると思われるが、今回の応急処置の経過を見守りたい。

児嶋さんドリップコーヒーを入れて下さる、冷えた体に五臓六腑しみ本当に美味しい。



仙人舞台石

大古ノ辻

小仲坊に無事下山

関ヶ原峠經由の下山は、体は楽であるが約2時間半要する事から、下山時間約2時間の通常ルートで前鬼・小仲坊に下る事にした。

太古ノ辻からの登山路には、去年は積雪していたが、今年は長雨のせいがか全く積雪無し、下方の谷間に残雪がある。

木製階段が濡れているので慎重に下る。補聴器を付けていない田中さんに、ルート指示しても聞こえず手間取っている事がある。

二つ石で小休止後下山するが、田中さん踏ん張り難くなり、大分体力消耗が激しい様だが、予定より25分遅れの16時25分

に小仲坊に無事下山する。この天候の中、田中さん良く頑張ったと思います。

B班の沖崎、畑林秀、大江さんが車回送し待っておられる。

小仲坊の五鬼助氏が帰宅される直前に沖崎氏が着き、点検巡視の仲間の下山を伝えたので、帰宅をししばらく待って下さった。

ゲートまで歩かなく済んだとホッと安堵する。

紙を見ながら下手な川島の般若心経で無事下山の勤行をする。

川島、沖崎車に分乗し、池原スポーツ公園に戻り、流れ解散とする。

行動タイム

4月12日(日)

持経宿(約 1055m) 6:05→6:35 阿須逆利岳(1251m)6:40→鎖場
7:00→7:10 証誠無漏岳(1301m)7:20→7:50 涅槃岳(1376.2m)8:00
→8:15 剣光門(約 1195m)→8:45 滝川辻(1306m)8:55→9:15 般若岳
(1322m)9:30→10:00 地藏岳・子守岳(1464m)10:20→10:30 天狗の
稽古場→10:40 嫁越峠(約 1345m)10:45→11:15 奥守岳(約
1485m)11:45→12:05 天狗山(1537.1m)12:10→12:35 石楠花岳手
前鞍部(約 1460m)13:00→仙人舞台石(約 1510m)13:25→13:35 太
古ノ辻(約 1460m)13:55→14:45 ニッ石(約 1245m)14:55→16:25
前鬼・小仲坊(約 810m)16:45→前鬼口 17:05→17:15 池原スポーツ
公園 17:25→18:40 新宮。

(川島 記)